

大阪
成蹊

学園広報誌

* Osaka Seikai *

No.43

2024年2月10日発行



学校法人 大阪成蹊学園

大阪成蹊大学
びわこ成蹊スポーツ大学
大阪成蹊短期大学
大阪成蹊女子高等学校
こみち幼稚園

国連本部



本学での講義



国連記者会見

吉川元偉客員教授プロフィール：1974年外務省入省。スペイン大使、初代アフガニスタン・パキスタン支援担当大使、経済協力開発機構(OECD)日本政府代表部大使、国際連合日本政府代表部大使・常駐代表などを歴任。国連大使在任時(2016年)には、日本政府を代表してパリ協定(気候変動に対応するための国際的な取り決め)に署名。2016年外務省を退官し、翌年より国際基督教大学特別招聘教授。2021年より大阪成蹊大学客員教授。

大学生の印象

全国各地の大学で講義をすることがあります。こちらから質問しても、人前で意見を述べることがなかなかできない学生が多いです。「出る杭」になるのが嫌なのでしょうか。しかしながら後日授業の感想レポートを読むと、よく考えた意見が書かれているものが多く、驚くことがあります。大阪成蹊大学でも同じような経験があります。

社会に出た時、自分の意見をきちんと言えることが大切です。少なくとも意見を聞かれたら答えられるようにしたいですね。

これを改善するのは、学生だけに求めても十分ではなく、教師の側でも工夫できることがあります。コロナ禍の中、大阪成蹊大学でもオンライン授業を実施しました。その経験を活かしオンラインと対面授業を併用するハイブリッド授業が今回の授業(特別リレー講義)で行われています。初回にオンデマンド授業でじっくりと考えてもらい、次の対面授業でグループ討議・発表を行っています。これは、学生が意見を持ち、それを積極的に述べるための良

いやり方だと思います。大阪成蹊大学では、アクティブラーニングの推進や様々な発表の機会を設けていると伺っています。それらの取り組みも、自らの言葉で意見を発信するトレーニングとして非常に有効だと思います。

「意見を持つ」ことの大切さ

外国で暮らしてみても、日本人は、「正直」「勤勉」な一方、「おとなしい」「意見を言わない」という印象を持たれていると思います。これは最初にお話した日本の大学生に対する印象にも似ています。

いろいろな国の人が集まって議論している中、黙っていると、その人は自分の考えのない人、その場に居なくても困らない人と見られる可能性が大きいです。日本の総理大臣で、世界で記憶されている方は残念ですが多くありません。名前を覚えられている方々は、いずれも自分のはっきりした意見を発信された政治家です。

自分の意見や主張のごり押しはだめですが、多くの人が納得する意見を言える日本人がたくさん出てくれば、日本人のイメージが、「正

大阪成蹊大学

元国連大使からの 学生へのメッセージ

大阪成蹊大学 国際観光学部 吉川元偉客員教授

直」「勤勉」に加えて「良い意見を持っている」に変わっていくでしょう。そうなれば非常にいいですね。

紛争の絶えない世界と日本の立場

今2つの戦争が起きています。ウクライナと中東のガザですが、自分たちには関係ないと思っている人が多数ではないでしょうか。日本が戦争をしなければ、少なくとも日本は平和で豊かな生活をする事ができると思っているからでしょう。でも現実とは違います。

2022年の2月から続いているロシア・ウクライナ戦争でロシアが勝つかも知れません。そうなれば、国連安保理の常任理事国という平和を守る大きな責任を担っているはずの国が、明白な国際法違反の武力侵略をして隣国の領土を略奪することになります。そのような状況を日本にあてはめると、ロシアにより武力で略奪された北方領土に戻ってくることは考えられません。同じく常任理事国の中国は、ロシアの軍事行動を非難していません。ロシアがウクライナ戦争に勝つと、中国は、台湾に進攻してもアメリカ含めどの国も介入しないだろうと考える可能性があるでしょう。そうなれば日本の領土も脅かされるリスクが出てきます。ウクライナを助け、ロシアが勝たないように行動することは、日本の利益でもあるのです。

昨年の10月以来中東では、パレスチナのハマスという非政府組織がイスラエルを武力攻撃して多くの人が殺害され人質に取られていました。これに対しイスラエルが報復攻撃をし、大きな戦争になっています。日本がどういう対応をするかを世界は見ています。日本の同盟国であるアメリカは、イスラエルの行動を支持しています。日本が90%の石油を輸入しているアラブ諸国はパレスチナを支持していますので、その立場に賛同するとアメリカとの関係がぎくしゃくするかも知れません。同時に、ガザで起きている人道的惨状は止めないといけませんから、イスラエルに注文をつけないといけ

ません。このかじ取りは非常に難しいです。我々市民も日本の置かれている立場を理解して、世界の紛争を見る必要があると思います。

あなたは何がしたいのか

「あなたは何がしたいのか?」「大学で学んでいるのは何のためか?」を自分自身に問うことが必要です。できれば高校生の時に、遅くとも大学生の間に、自分が将来やりたいことをしっかり考えれば、次はそれを達成するためにどういう筋道があるのかを探ることになり、具体的にやるべきことが見えてきます。やりたいことが明らかになると、あとは強い決意をもって実行するだけです。

世界はすでにグローバルになっています。どんな仕事についても世界との関係があります。英語を話せることはとても大事です。実際に海外に出かけて行き、世界の実相を知ることも大切です。それもアメリカやヨーロッパといった先進地域ではなく、日本の隣国であるアジアを知ることが大切だと思います。この点に関しての一例ですが、外務省には「在外公館派遣員※」という制度があり、大学在学中(大学卒業生も応募可能)の2年間、世界各地の大使館・総領事館に派遣されて、空港での来客の接遇をはじめとする多くの貴重な経験を積みます。報酬・家賃が支給されます。派遣員終了後の進路を見ると幅広い分野に就職しています。外務省に採用された人もいます。大阪成蹊大学の学生諸君も挑戦してみたいはいかがでしょうか。

※在外公館派遣員制度について
各国の日本国在外公館(大使館、総領事館等)に民間人材を派遣し、語学力を生かして主に後方支援的な業務に従事してもらう制度。外務省の委託を受けて一般社団法人国際交流サービス協会が、年間2回(前期:5月上旬、後期:10月上旬)の募集を実施しています。(一般社団法人国際交流サービス協会のホームページはこちら <https://www.ihcsa.or.jp/>)

大阪成蹊学園

大阪成蹊学園の飛躍 ー挑戦し学び続けるー

大阪成蹊学園 専務理事 北本 暢

2023(令和5)年8月、学校法人大阪成蹊学園の専務理事に着任いたしました北本でございます。着任以来、多くの学生・生徒・園児の皆さんの学びと成長、職員の業務改革への取組み、教員の教育・研究の実践を身近に拝見し、大きな確信を得ました。それは、石井理事長・総長が提唱し推進された「学園のパラダイム改革と教学改革」による成果が「教育・研究の優位性」となり、多くの関係者のお力で有機的に融合して、新たなステージで大きな可能性を生み出していることでした。

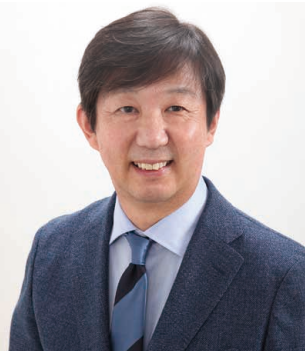
私たちの学園は、1933(昭和8)年に高等成蹊女学校として設立され、90年の長い歴史を歩み続けてまいりました。現在では、約8,000名の学生・生徒・園児が在籍し二つの大学と大学院、短期大学、高等学校、幼稚園を有する総合学園として成長いたしました。特に2010(平成22)年以降、急速な少子化が進行する中において

も、積極的に学園のパラダイム改革に挑まれて「財政基盤の再構築」と「学びの改革」を断行、他の学校法人に類を見ない素晴らしい躍進を遂げて、社会的にも高い評価を確立されました。多くの学校法人が厳しい経営環境に置かれる中でも、2023年(令和5年)4月、阪急京都線・相川駅前に新キャンパスを開設、看護学部とデータサイエンス学部の2学部を設置して6学部体制の総合大学として、常に改革の歩みをとめることなく進化を続けております。

私自身は、40年間にわたり日本の高等教育界で、大学行政、学校法人経営のゼネラリストとして、大学の開学、学部の開設、学校法人の分離・合併、大学の教学改革、法人の財政改革など、学校法人の運営においては、重要な意味を持つ任務・役割を務めてまいりました。職員として、教員として、そして経営の立場から多角的に高等教育に携わってきて、困難な課題に直面することも多く、その経験から培ったものは「挑戦し学び続ける精神」でした。どのような試練や困難においても「挑戦し学び続ける精神」を忘れず、誠実にひたむきに行動することで必ず道は拓けてまいります。まさに、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという、学園の行動指針である「忠恕」に通じるものであります。「人のため、社会のため、そし

てそれは自分自身のため」との思いから、学生・生徒・教職員の皆さんにも「忠恕」の精神を忘れずに、挑戦し学び続けていただきたい。そして「徳があり、人に慕われ、信頼される人」に成長されることを、心から願っております。

現在、少子化により日本の私立大学・短期大学は、半数以上が定員割れとなり、今後も加速度的に悪化していくとされています。ただ少子化は、突然の事象ではなく予測されていた事実であります。不断的努力・改善・改革を続けた学校法人のみが、歴史を刻み続けることでしょう。私たち大阪成蹊学園が更なる発展を遂げ、建学の精神「桃李不言下自成蹊」の実践のもと、歴史を超えて新たな学園の未来を創造するため、微力ながらその使命を精一杯果たしてまいります。何卒、宜しくお願い申し上げます。

第43号
学園広報誌

WAVE

2面 学部ニュース(データサイエンス学部、看護学部 ほか)

3面 学修成果の発表(大阪成蹊カップ ほか)

4面 海外研修・国際交流(海外スポーツビジネス調査 ほか)

5面 産官学連携(シンポジウム、新商品共同開発 ほか)

6面 卒業生インタビュー

7面 クラブ活動 TOPICS こみち幼稚園だより ほか

8面 第13回全国アート&デザインコンペティション ほか

大阪成蹊大学

データサイエンス学部

1期生に聞く
学部の魅力

高校生の時から情報学に興味のあった1期生(1年生)の道前良人さんと吉村佑紀さん。すでに企業のインターンシップにも参加しているというお二人にデータサイエンス学部の魅力についてお話を伺いました。

道前さんは、入学前からプログラミングに興味を持っていたことから、本学に入学。実際に勉強していく中で、データの活用や分析を体験し、データ活用におけるこの分野の今後に可能性を感じています。現在面白いと感じている授業は、「未来クリエーションプロジェクトの中で、実際にコードを書いてロボットに機械学習させること」だと言えます。また、プログラミングは個人でもできますが、ロボットや機械を使った学習は、個人ではできないため、大学で実際の技術を使えることがデータサイエンス学部の魅力だと感じています。

現在、道前さんは吉川教授(学部長)の紹介で、東京の会社にオンラインでインターンシップに参加して3ヶ月が経過。ChatGPTなどを利用したプログラミング変更による社内業務の効率化や、データ収集を行い、ChatGPTで要約させるコードを書いて、他の企業のデータ分析用にスクリプトを作成する業務を行っています。

一方、吉村さんは、「プログラミングはデータや数字が並んでいるだけで、何が書いてあるかもわからない」という認識からのスタートだったと振り返ります。しかし、授業を受けているうちにちゃんとしたプロセスや理由があってこうなっているというのを学



(左)道前さん (右)吉村さん

んで、今はすごくプログラミングが楽しいのだそうです。現在、面白いと感じている授業は「スタディスキルズ」。国際的に取り組まれているSDGsをテーマに取り上げたり、パワーポイントを使った発表をしたり、Googleフォームなどを活用したアンケートの作成など、データだけではなく、実際に社会で使えるような技術が身につけていることを実感。16名の多彩な教員とも、「距離が近くて、質問しやすい」環境で、恵まれていると感じています。現在吉村さんも、道前さんと同じ会社でインターンシップを行っており、GoogleのBigQueryなどを活用したクエリ作成などを会社の社員や他大学のインターンシップ生と一緒にミーティングを行いながら、様々な業務に取り組んでいます。

インターンシップに参加する2名の学生に対して吉川教授は、「彼らのような意欲のある学生は、1年生からでも全く問題なくインターンシップに行けます。どんどん成長していくと思いますし、大学での学びとの相乗効果は非常に大きいですね。一人ひとりの学生の興味は当然違いますので、各学生の興味に応じてうまく方向づけをしていきたい」と語っています。

看護学部

「地域健康探索プログラム」を紹介!



看護学部では、超高齢化社会における多様な医療ニーズに対応するための「地域包括ケアシステム」と「多職種連携」を深く理解するために、地域を探索して歩き、人々の生活の営みと健康課題を発見することをめざして、1年次に「地域健康探索プログラム(地域健康探索論Ⅰ・Ⅱ、地域健康探索論演習)」を開講しています。



11月8日の「地域健康探索論Ⅱ」では、近隣のマンション「オリーブハイツ相川」を2グループの学生が訪れました。大阪成蹊大学が所在する東淀川区の小松地域に発足した「相川オリーブハイツ振興町会」では、住民が相互に生活状況や健康状態を確認しながら、地域に住む一人ひとりがいきいきと生活を続けるために有志の「お年寄り見守り隊」を結成。「百歳体操」などの取り組みを中心とした定期的な活動が行われています。

学生からのインタビューでは、地域のこと



や「百歳体操」に関する質問にとどまらず、食事の内容や健康状態といった日頃の生活状況にも着目し、生活者一人ひとりの目線に立って話を伺い、健康課題について考えました。

参加した学生からは、地域の皆さんの元気なお姿はもちろん、健康意識の高さや「お年寄り見守り隊」による住民自治の様々な活動に対して、驚きや尊敬を示す感想がたくさんありました。

11月末からは、「地域健康探索論演習」へとステップアップし、地域の人々の健康課題について学びを深めていきました。



教育学部

保健体育教育コースによる
豊中市×大阪成蹊大学 小学生対象「マルチスポーツ体験教室」
7月29日～11月25日(全8回開催)

教育学部 臼井達矢 准教授(保健体育教育コース主任)と豊中市との官学連携の受託研究である、「マルチスポーツ体験教室」の全開催が終了しました。

小学校1～6年生を対象とした同教室は、スポーツの早期専門化によって、運動能力の偏り、オーバーユースによるけが、バーンアウト(燃え尽き症候群)などが問題となっていることを背景に、学童期に様々なスポーツを体験する機会を創出し、大学生等のアスリートからスポーツの楽しさを伝えることで、青年期以降の運動部活動や生涯スポーツへの参加促進、ス

ポーツ実施率の向上につなげることを目的としています。

同教室を通して、ゼミ生はスポーツを通じた子どもとの関わり、楽しめるスポーツ環境や仕掛け、さらには安全管理について実践的に学ぶことができました。

子どもの健康や体力について、多くの課題が指摘されている現代において、学校教育や学校体育だけでなく、学校と地域、家庭、保護者とが連携し、多種多様な運動やスポーツを選択できる環境を整えていく必要性を強く実感できた教室となりました。



学修成果の発表

大阪成蹊大学

第7回大阪成蹊カップ プレゼンテーション大会を実施

10月8日に、第7回大阪成蹊カップ プレゼンテーション大会を開催、その表彰式が11月14日に行われました。

本学では、学外連携科目において企業や外部団体の課題をチームで解決する授業を行っており、3学部の2年生全員、計790名が予選から参加。企画内容の妥当性、実現可能性、発表のわかりやすさ、資料の完成度、ミッションの達成度などが審査され、芸術学部 ゲーム・アプリケーションコースのチームが最優秀賞に選ばれました。

大阪成蹊カップ プレゼンテーション大会は、キャリア教育における学修成果を発揮する機会の場合として毎年開催しています。



最優秀賞		
学 部	提 携 先	課 題
芸術学部 ゲーム・アプリ ケーションコース	クツワ株式会社 ※クツワ株式会社は、文具と生活雑貨の企画・開発・製造・販売を手掛ける総合文具メーカー。	「子供たちの困りごとを解決する」ツールや「あったら楽しい・便利」なツールという目線での商品企画を行う。
チ ャ ム 案		
忘れ物に悩む保護者、子ども双方の視点から子ども自身が楽しく、自主的に学校の準備ができる「がっこうの準備ボード」を提案		



【最優秀賞 受賞チーム】 出口 信良さん
小椋 優衣さん
川中 敬大さん
藤井 有奈さん
山城 沙絢さん

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

第6回「英語プレゼンテーション/暗唱大会 English Presentation / Recitation Contest」を開催

12月21日に、大阪成蹊大学と大阪成蹊短期大学合同の「第6回 英語プレゼンテーション/暗唱大会 English Presentation/ Recitation Contest」が開催されました。

この大会は、日ごろの英語学習の成果発表の場を設けることで、学生の学習意欲を高めるとともに、英語運用能力やプレゼンテーション力を向上させることを目的としています。

「暗唱部門(短期大学)」と「プレゼンテーション部門(教育学部 英語教育コース/国際観光学部)」の3つで構成され、暗唱部門では、有名なスピーチを暗唱することを通じて、スピーチ構成の理解や発音の向上、効果的な発声方法が、プレゼンテーション部門では、これまでの英語学習で培った英語運用能力を活かすことが求められ、大学・短期大学の英語を専門とする教員が厳正なる審査を行いました。



- 【暗唱部門(短期大学)】
第1位 Yuuri Kawahara 河原 侑里さん
- 【プレゼンテーション部門(教育学部 英語教育コース)】
第1位 Saki Miura 三浦 彩季さん
- 【プレゼンテーション部門(国際観光学部)】
第1位 Hanitan(Ran Fujii 藤井 蘭さん/ Kokoro Yoshida 吉田 心さん/ Taichi Uebayashi 上林 太一さん/ Kasumi Inoue 井上 香澄さん/ Kanon Yamaguchi 山口 夏音さん)



「第7回 めざせMaestro! 大阪成蹊学園ピアノコンペティション」を開催

12月14日に、学修成果を発揮する機会として「第7回 めざせMaestro! 大阪成蹊学園ピアノコンペティション」が開催されました。

第7回目となる今回は、はじめて駅前キャンパスで行われ、大阪成蹊大学 教育学部 教育学科 初等教育専攻と、大阪成蹊短期大学 幼児教育学科から、合わせて244名の学生が予選から参加、予選を通過した53名が当日演奏を披露しました。

本コンペティションは、大勢の前で演奏する経験を通して現場での実践力に繋げると同時に、高いモチベーションを持って練習に取り組むことを目的として毎年実施されています。



審査結果

【ピアノ Maestro部門】
最優秀総長賞 坂ノ上 真子さん (大阪成蹊短期大学2年生)

【弾き歌い Maestro部門】
第1位 池尻 妃花さん (大阪成蹊大学3年生)

【ソナタ部門】
第1位 藤田 りみさん (大阪成蹊短期大学1年生)

【ソナチネ部門】
第1位 末永 樹里さん (大阪成蹊大学1年生)

【ブルクミュラー部門】
第1位 今岡 優月さん (大阪成蹊短期大学2年生)

【バイエル部門】
第1位 内田 美玖さん (大阪成蹊短期大学1年生)

【弾き歌い Bravo部門】
第1位 川畑 英里奈さん (大阪成蹊大学3年生)



海外研修・国際交流

大阪成蹊大学

■経営学部 経営学科・スポーツマネジメント学科

アメリカ・ボストンでの「海外スポーツビジネス調査」海外研修

経営学部では、9月4日～11日に、米国ボストンを研修先とする海外短期研修を実施し、スポーツマネジメント学科の2・3年生11名と経営学科経営コースの3年生1名が参加しました。この海外研修は、スポーツマネジメント学科の授業「海外スポーツビジネス調査」を兼ねています。

9月5日には、ボストン近郊に本社を構える世界的なシューズメーカーである「New Balance」世界本社を訪れ、前年開業したばかりの全天候型マルチスポーツ施設「the TRACK at new balance」を同社スタッフの案内で

見学しました。「the TRACK at new balance」は、その名の通り、5,000席の客席を備える、屋根で覆われた陸上競技場で、陸上トラックの上に人工芝を敷き詰めるとサッカー場としても利用できるほか、別フロアには、陸上サブトラック、バスケットボールやバレーボールコートとしても利用できるフロア、近日オープン予定の食堂、音楽ホールなども備えています。

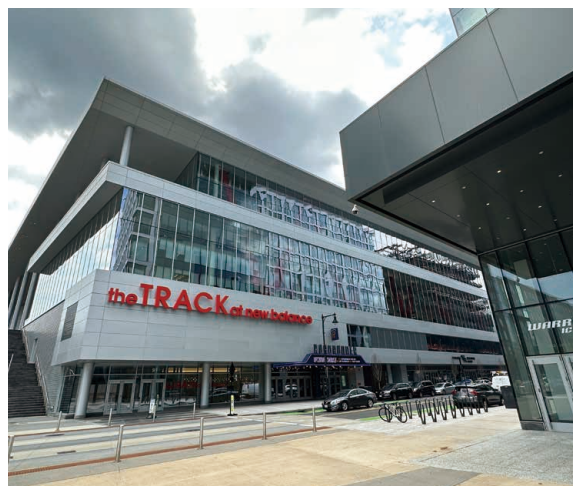
このスポーツ施設内には、商品開発のためのラボも併設されており、普段は関係者以外立ち入り禁止のエリアにも訪問させていた

きました。ラボは、酷暑・極寒などあらゆる気象状況が再現でき、気温や湿度に応じて人間のように「汗をかくマネキン」もあり、体表面温度を測定しながら、商品の耐久試験も行う最先端のスポーツウェア開発拠点となっており、スポーツによる街づくりの最前線を目の当たりにすることもできました。

そのほか、全米で最古の球場であるレッドソックスの本拠地フェンウェイパークの見学や、プロスポーツ並みのビジネスを展開する大学アメリカンフットボールを視察。また、経営学の分野で最高峰のハーバード・ビジネス・ス

クールを訪問し、同校キャンパス内で、スティーン・グレイサー名誉教授から「慈善活動とブランド構築：Jeff VinikとTampa Bay Lightning（アイスホッケー）」をテーマにしたケーススタディ式の特別講義を受講しました。

特別講義は、学生にも分かりやすいゆっくりした英語で進められ、アイスホッケーの試合を間近で見た経験がほとんどない学生に対し、リーグの特徴や歴史などの背景説明に加え、スポーツクラブとコミュニティのつながりや慈善活動が、どのようにビジネス拡大に結び付いたかについて、解説いただきました。



大阪成蹊短期大学

■調理・製菓学科

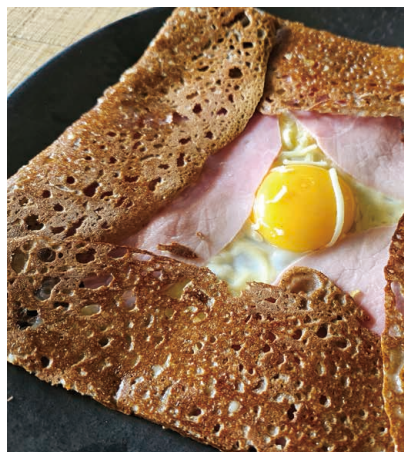
フランスで食文化研修

調理・製菓学科調理コースでは、1年生19名と2年生16名の計35名が8月30日～9月7日の9日間にわたり、「ヨーロッパ食文化研修」を実施し、フランスのブルターニュ地方とパリを訪れました。

ブルターニュ地方の郷土料理である「ガレット」専門の料理学校では、そば粉をベースにした生地を焼く体験や「ガレットコンプレット」の試食体験、フランスで二番目に大きなレンヌの朝市を訪れ、日本ではあまり見かけない食材にふれたり、有名店で料理やお菓子を堪能しました。

また、世界遺産の修道院「モンサンミッシェル」を見学後に、セーヌ川クルーズやエッフェル塔のライトアップであるシャンパンタワーを見物。オルセー美術館では世界的に有名な絵画や彫刻を鑑賞し、芸術的感性にも触れたほか、パリ市内のミシュラン1つ星フレンチレストラン「アリアンス」では、厨房見学やテーブルマナーを学びました。オーナーシェフの大宮氏は大阪出身の日本人で、試食後に質疑応答や、これから調理師として社会に出ていく学生に、期待とエールの言葉をかけてくださいました。

調理の世界で外すことのできないフランス料理。現地での食材、料理、空気感や人にふれ、かけがえのない貴重な時間を過ごすことができました。



大阪成蹊女子高等学校

シンガポール修学旅行

12月中旬に、2年生が5日間のシンガポール修学旅行に行きました。今回の修学旅行は、沖縄とシンガポールの2方面に分かれての実施となりました。

初の海外渡航という生徒もあり早朝出発で緊張感のあった搭乗手続きも無事に済み、シンガポール航空で現地へ。真冬の日本とは異なりシンガポールの気温は蒸し暑い30度。マリーナ・ベイ・サンズのスカイパーク展望デッキ、マーライオン公園、リトルインディア、アラブストリート、チャイナタウンなどを見学。ユニバーサル・スタジオ・シンガポールも訪れ、日本のUSJとは全く違うアトラクションやショップを見て回り、歓声をあげながらたくさん思い出を作りしました。

各コースの特色を活かした研修も実施しました。普通科特進コースはNUS(National University of Singapore)キャンパスツアー、美術科はナショナル・ギャラリー・シンガポール見学など、日本では経験できない海外修学旅行ならではの充実ぶりでした。

また修学旅行最終日は、B&S(ブラザー&シスター)プログラムで班ごとに分かれ、それぞれの班で計画したプランを基に現地の大学生と市内観光。各プラン出発前は緊張でいっぱいだった生徒たちも帰ってきた時には、笑顔で現地の大学生と英語で会話し、別れを惜しんでいました。

夜は、プラナカン料理のピュッフェを食べた後、オープントップバスでシンガポールの夜の街を観光し、綺麗な景色を目に焼き付けて、全員無事帰国しました。



Ⅱ びわこ成蹊スポーツ大学



奥野史子所長



大河正明学長



室伏広治長官



間野義之教授



室伏広治スポーツ庁長官

開学20周年記念シンポジウム

地域とスポーツ
～部活動の地域移行をきっかけに～

12月5日、ホテルグランヴィア京都にて、室伏広治スポーツ庁長官（以下：室伏長官）をお招きし、びわこ成蹊スポーツ大学開学20周年記念シンポジウム『地域とスポーツ～部活動の地域移行をきっかけに～』を開催しました。

本シンポジウムは、本学と大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所が主催し、京都市教育委員会、大阪市教育委員会、大津市教育委員会に共催いただきました。

当日は、平日の夜にもかかわらず、会場に420名、オンラインでは240名の方にお集まりいただきました。教育関係者に限らず様々な方にご参加いただき、今回のテーマである部活動の地域移行を含む「地域とスポーツ」への関心の高まりを感じました。

第1部は、室伏長官による、「地域におけ

るスポーツの在り方」について基調講演。室伏長官自身がこれまで競技と大学での研究・教育活動を両立してこられた経験や、スポーツ庁長官としての現在の取り組みについて講演いただきました。

スポーツ庁では、新たに地域スポーツ課が設置され、部活動の地域移行を通して、中学校だけでなく国民全体のスポーツへの関心、さらには地域の活性化をめざして取り組んでいることが説明されました。

従来の部活動から大きく変化し、部活動だけでなく地域でスポーツに取り組めるように、『スポーツを学校から解放する』考え方についてもお話いただきました。

第2部ではパネルディスカッションとして、室伏長官、大河正明びわこ成蹊スポーツ大学学長ほか、間野義之早稲田大学ス

ポーツ科学学術院教授、奥野史子大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所所長・びわこ成蹊スポーツ大学客員教授が加わり、『地域とスポーツ～部活動の地域移行をきっかけに～』について、4名のパネリストによる日本の将来を見据えた地域とスポーツの関わりとその発展・役割について各々の考えや構想について議論されました。

パネルディスカッションは4つのテーマで構成され、部活動の地域移行について、①大学が関わることの意義、②地域性をどう考えるか、③資金について、④大会参加資格についての議論が進められました。

ふるさと納税や企業による資金協力、WEB環境を活かした指導の展開、多くの大学を巻き込んだ指導者バンクの立ち上

げ、各競技プロリーグ・民間業者・総合型スポーツクラブほかによる地域移行、トーナメント大会ではなく多くの子どもたちが楽しめる試合の展開、多種多様なスポーツと触れ合う機会の創出など様々な提案と議論がなされました。

今回のシンポジウムが、スポーツに関わる皆様にとって学校部活動だけでなく、スポーツの在り方を考えるきっかけとなるシンポジウムになりました。

開学20周年を迎えたびわこ成蹊スポーツ大学。スポーツを専門とする大学として、これからも新たなスポーツ文化の創造と、地域との共生をはかり、スポーツで社会課題を解決していきます。

Ⅱ 大阪成蹊大学

■ 経営学部 経営学科 食ビジネスコース

『かわいいスイーツ』を共同開発し、
近畿地区のローソン約2,500店舗で販売

経営学部経営学科食ビジネスコース3年生の大久保 結衣（おおくぼ ゆい）さん、南野 愛優花（なんの あゆか）さんの2名が、「脱脂（しぼりかす）ごま」を使用したアップサイクル食品『スプーンで食べる 黒ごまレアチーズケーキ』を、株式会社ローソン、株式会社和田萬と共同開発。10月3日より 近畿地区のローソン約2,500店舗で販売されました。更に、4年ぶりに一般参加が可能となった大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学の大学祭（10月8日・9日の2日間で開催）にて特別模擬店を出展し、学生の開発商品を地域の皆さまにもお楽しみいただいたほか、9日にはポンタと一緒に発売記念イベントを行いました。



商品概要

商品名	スプーンで食べる 黒ごまレアチーズケーキ（税込225円）
販売期間	2023年10月3日～約1ヶ月間
販売エリア・店舗数	近畿地区 ローソン店舗 約2,500店
特長	「かわいい・贅沢感・お値打ち」の女子大学生らしいコラボ商品！
オススメのポイント	①老舗ごま専門店である株式会社和田萬の黒いりごま、黒ごまペースト、脱脂ごまを贅沢に使用しており、酸味と甘味の絶妙なバランスのスイーツに。②ごま油を絞った後の「脱脂ごま」をアップサイクルしている商品であり、食品ロスにも貢献。

【商品開発に携わった学生のコメント】

<大久保 結衣さん>商品開発をしてみたい!という夢を叶えることができ、とても嬉しく思っています。大好きなごまを使い、自分たちの想いのこもったこの商品でたくさんの人を笑顔にしたいです！
<南野 愛優花さん>何もかもが初めての経験で、提案や試作などで行き詰まることばかりでしたが、商品化が決定したとき、はじめて私たちの努力が認められたと実感し、今後の自信に繋がりました。



■ 経営学部 経営学科 公共政策コース

「ビジョンコンテスト
～JR吹田駅前の活性化ビジョン～」で
最優秀賞（済生会吹田病院賞）を受賞

経営学部経営学科公共政策コース、荒木俊之准教授のゼミ生が、10月14日に実施された「すいたライジングサン100イベント」の企画「ビジョンコンテスト～JR吹田駅前の活性化ビジョン～」に参加。同コンテストにて、これからも100年続く未来を見据えて、私たちが「住んでみたい」という視点でまちづくりの目標と実現方法を考え提案し、本学のグループが最優秀賞（済生会吹田病院賞）を受賞しました。

学生たちは、昨年度の授業の中でJR吹田駅前地区のフィールドワークを実施。商店街活性化の提案をした経験を生かして、JR吹田駅前地区がこれからも100年続くことを見据えた、近未来のまちづくりを考えました。その中で、今後子どもからお年寄りまで「住んで良かった・訪れて良かった」と思えるまちになるような事業の提案などを行いました。

吹田市 後藤市長をはじめ審査員の皆さまからは、「駅前広場の芝生化や自由通路の橋上化は良いアイデアだ」、「手法が非常に論理的、科学的で、内容もすばらしいものでした。」との評価を頂きました。

提案内容

- 近隣に大学が多く、交通利便性の良いJR吹田駅前の利点を活かして、大学のサテライトキャンパスや大学と共同で運営する先端技術テクノロジーのオフィスなど、複合機能を有する駅ビルをPFI（Private Finance Initiative）事業で新設する
- JR京都線を挟んで南北の連絡に課題があることから、駅ビルには歩く歩道やエスカレーターを設置した自由通路を設けることで、歩きやすい空間とする
- 子どもからお年寄りまで利用できる駅前広場を「芝生化」し、まちの玄関口として明るいイメージにする
- まちでワクワクできるように、AI活用の無人店舗やカプセルトイ自販機の設置など、「子どもから大人まで楽しめるお宝さがし」ができる商店街にする



<提案メンバー>浅野 七海さん、安藤 義貴さん、浦田 真莉奈さん、大泉 諒さん、小倉 壮太さん、尾崎 七海さん、北川 明倫さん、鈴木 優菜さん、深井 桃加さん、藤井 茜花里さん、山口 美穂さん



社会で活躍する 卒業生インタビュー

様々な業界で活躍する本学の卒業生の方々に、お仕事や学生時代の学び、後輩へのメッセージについて伺いました。



大阪成蹊大学 経営学部 国際観光ビジネス学科 2023年3月卒業
谷坂 映歩さん(日系コンサルティング会社／海外駐在員)

専門的な業務が多く難しい中でも、日々自分の成長を感じている

大学時代は、海外で仕事をしたいという夢を持って就職活動を行う。コンサルティング会社に興味があったことから、日系のコンサルティング会社に就職。現在はカンボジアのプノンペンで現地駐在員として勤務。主に会計税務・人事労務・法務等の分野から日系企業の経営サポートに携わっている。

ー現在の仕事内容について教えてください。

カンボジアのプノンペンで主に会計税務・人事労務・法務等の分野から日系企業様の経営サポートを行っています。駐在員として、現地で新規顧客獲得のための営業、セミナーの開催等を行ったり、会計税務の実務的な部分では、カンボジア人スタッフから上がってきた成果物を確認し、場合によっては顧客への説明のためにレポートの作成及びミーティング等を行っています。また、カンボジアでも監査や税務調査を行う事があるので、スタッフと共に同行して先方の日本人駐在員に現状を説明したり、問題が発見された際には、その場で話し合って解決していく形となります。人事労務・法務の部分では、社内の人事回りや労働者との間で起こった法律関連の問題、また、企業の進出・撤退やその他政府への手続きが必要な場合は、カンボジア人スタッフだけでなく、日本人も関わって進めていきます。

ーなぜ、このお仕事を選んだのですか？

海外で仕事をしたいと考えて就職活動を行っていましたが、なかなか思うように行かず、就職活動も終盤に差し掛かったところに「Offer Box」という就活サイトで偶然現在の会社から連絡が来ました。

元々コンサルティングの会社に興味があったということと、会長との面接時に海外勤務に挑戦したいと告げたところ、すぐにOKをだしていただいたことがきっかけです。新卒で海外勤務の経験ができる会社はなかなかない中で、大変な事もたくさんありますが、理想の仕事に就けたと感じています。

ーこのお仕事のやりがいについて教えてください。

毎日、慣れない環境でカンボジア人スタッフと正確にコミュニケーションを取ることは、対日本人と比べて2、3倍の労力と時間がかかります。また、業務内容も専門的なものが多く、法律や政府への申告が絡んでくる業務がほとんどなのでミスは許されません。そんなプレッシャーが大きい仕事ではありますが、カンボジア人スタッフと一つ一つの業務やゴールを達成できた時や、顧客から評価をいただいた時、新規事業への挑戦ができる時など、多くの経験があり、充実した日々を過ごしています。

このように、文化や言葉も違う環境で、カンボジア人スタッフと意思疎通を図ることでさえ、とても難しいですが、困難を乗り越えることができたという達成感と自分自身の成長を感じています。



ー最後に、学生の皆さんへメッセージをお願いします。

自分のやりたい事を見つけることは難しいかもしれませんが、興味のある事を見つけることは、やりたい事を見つけるよりも簡単だと思います。大学生活では、その興味のある事に一生懸命取り組んでほしいと思います。そして、大阪成蹊大学を卒業することに誇りを持ってほしいです。「勉強も部活も遊びも全力で!」そして、興味ある事、やりたい事はとことん挑戦してください。皆さんの今後の活躍を遠くから応援しています。



びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 スポーツ学科 2013年3月卒業
西村 拓也さん(公益財団法人 日本バスケットボール協会／強化・育成・指導者グループ 代表強化セクション)

五輪やW杯など、大きなことにチャレンジできる仕事

スポーツトレーナーの道をめざすべく、びわこ成蹊スポーツ大学に入学。大学でスポーツビジネスを学ぶ中、ゼミの教員やバスケット部の顧問との出会いから、卒業後はスポーツマネジメントで有名なフロリダ州立大学スポーツマネジメント学科に留学し修士課程を取得。現在は日本バスケットボール協会で男子代表のチームマネージャーとして選手の育成・強化に携わっている。

ー現在の仕事内容について教えてください。

男子バスケットボール日本代表のチームマネージャーとして、選手の招集やチームのスケジュールを調整するなど、日本代表チームとして国際大会に参加しています。男子代表のマネージャーとしては一人でしたが、昨年からアシスタントマネージャーが1名入り協力して運営を行っています。また、強化部長や監督と相談し、チームのスケジュールを決めたり、各チームへ代表候補選手を発信するなど、最終的なメンバーを確定させて選手とチームに委嘱状を送付します。そのほかにも、マッチメイキングの調整や、旅行会社とホテルの手配を調整したりなど、主にコーチングとトレーナー以外の業務を幅広く担当しています。国際大会の4年間のルーティンは大きく決まっています。予算管理も含めて業務を行っています。業務上、英語で話すことが多く、選手とのコミュニケーションも大事な仕事です。男子日本代表チームは、年代別に4つのチームがあり、私も含め4名で担当しています。

ーなぜ、このお仕事を選んだのですか？

大学時代にバスケットボール部の顧問とゼミ教員との出会

いがなければ、今の自分はなかったと思います。ゼミ教員に相談した結果、卒業後にスポーツマネジメントで有名なフロリダ州立大学スポーツマネジメント学科に留学し、修士課程を取得しました。そこでスポーツビジネスの学びを深めることができ、スポーツに関わりたという想いが強くなりました。留学中にもバスケットボール部のマネージャーを経験しました。縁があって、公益財団法人日本バスケットボール協会に就職し、ちょうど東京五輪を控えているタイミングだったこともあり、またないチャンスだと思い、現職に就きました。

ーこのお仕事のやりがいについて教えてください。

プレイヤーではありませんが、海外のさまざまな文化にも触れることができ、五輪やW杯など、大きなことに挑戦できるということは非常にやりがいにつながっています。マネージャーの仕事は、人と人とのつながりが大事で、コミュニケーション能力に尽きるといいます。日本代表という中で、全世界の一流の選手やコーチに出会い、一緒に仕事ができるということは、要求やスタンダードが高くて、しんどい部分もありますが、やりがいを感じています。

ー最後に、学生の皆さんへメッセージをお願いします。

私にとって大学は、「自分を変える」「夢を叶える」きっかけを作ってくれた場所でした。授業だけでなく、日頃から教員の方とコミュニケーションをとることでチャンスが広がりました。ただ漫然と4年間を過ごすのではなく、びわこ成蹊スポーツ大学で、いろいろチャレンジしてください。自分からアクションを起こすことで、そのきっかけが見つかるかもしれません。



ファミリー入試制度のご案内

ご家族(受験者から三親等以内)のいずれかが、大阪成蹊学園内の併設校(ただし幼稚園を除く)の卒業生または在学生である方が対象になります。ファミリー入試合格者のうち、成績基準を満たす方には学費免除制度の特典があります。詳細は右記までお問い合わせください。



お問
合わせ先

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 広報統括本部
Tel:06-6829-2554 (平日9:00-17:00)
びわこ成蹊スポーツ大学 入試部入試課
Tel:077-596-8425 (平日9:00-17:00)

クラブ活動 TOPICS

大阪成蹊大学

フットサル部(男子)
第19回全日本大学フットサル
大会で優勝



2年連続2回目の大学日本一
決勝:大阪成蹊大学 5-3 多摩大学

陸上競技部(女子)
第39回 U20日本陸上競技選手権大会
400mハードルで優勝



平木 陽さん(経営学部 スポーツマネジメント学科 1年生)
優勝 59秒67 自己新記録

バントワーリング部
第51回バントワーリング全国
大会で2位



学校部門 大学の部 2位 金賞
※9年連続出場、金賞受賞

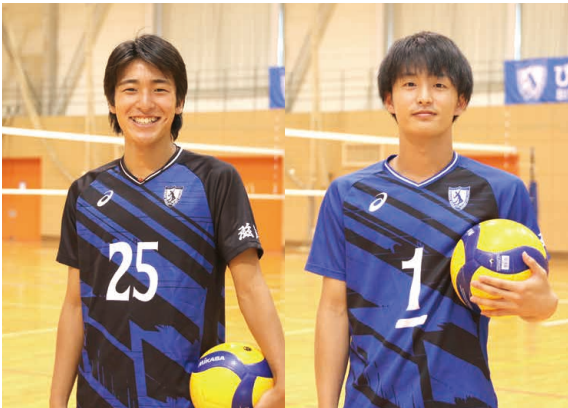
びわこ成蹊スポーツ大学

サッカー部(男子)
2024シーズンよりJリーグクラブへ
3名が加入内定



左:石橋 克之さん(スポーツ学部 4年生/J3 FC大阪)
中:工藤 真人さん(スポーツ学部 4年生/J2 ベガルタ仙台)
右:清水 一雅さん(スポーツ学部 4年生/J3 福島ユナイテッド)

バレーボール部(男子)
バレーボールVリーグクラブへ
2名が加入内定



左:五頭 寛大さん(スポーツ学部 3年生/V1 東京グレートベアーズ)
右:腰高 悠斗さん(スポーツ学部 4年生/V3 東京ヴェルディ)

ハンドボール部(女子)
創部5年目にして悲願の
インカレ出場権を獲得



関西学生リーグ1部
成績:5勝3敗1分(4位)インカレ出場決定

ART NEWS

大阪成蹊大学

オンラインゲーム「フォートナイト」にて クリスマスコンテンツを開発&配信!

芸術学部 ゲーム・アプリケーション
コースの学生と伊藤 俊輔准教授が、世
界中で愛されているオンラインゲーム
「フォートナイト」にて、クリスマスをテ
ーマにした謎解きと冒険が満載の脱出ゲ
ームを開発し、11月25日より配信され
ました。



「第6回 フェローズフィルム フェスティバル」 学生部門で特別招待作品に選出 ～12月17日開催の映画祭にて上映～

芸術学部 バーチャルメディア・ボイ
スクリエイターコース3年生の佐々木
優妃(ささき ゆうき)さんが制作したシ
ョートフィルム『姉妹』が、「第6回 フェ
ローズフィルム フェスティバル」学生部
門で特別招待作品に選出されました。
佐々木さんの作品は、12月17日に東京
都渋谷区のユーロライブで開催された
映画祭で上映されました。



大阪成蹊短期大学附属 こみち幼稚園

—大阪成蹊短期大学附属—
こみち幼稚園だより

こどもてんらんかい

こみち幼稚園では、12月2日に令和5年度「こどもてんらんかい」を開催しました。
子どもたち一人ひとりの絵画、工作や造形作品、友だちと協力して製作した作品を展示し、
来園時間を1時間ごとで区切って、3部制としてご家族で見に来ていただきました。
絵画作品は、春から描いてきたものの中から一人1点展示しました。工作や造形作品は、
年少・年中・年長のそれぞれで、テーマを決めて製作しました。
年少は、『おいで おいで』がテーマ。一人ひとり動物や食べ物や製作して、“みんな来て、
見て見て”の気持ちを伝えています。年中のテーマは、『クリスマスたらクリスマス』。クリス
マスにまつわるものを一人ひとり製作し、トナカイやそりなどは、子どもたちみんなで作りま
した。年長のテーマは、『そうだったらいいのにな』。空の上でこんなことできたら、海の中で
こんなことしたい、大きくなったらこんなことしたい!をイメージして作品を作りました。
子どもたちは、おうちのの人に自分の作品を指さしながら、うれしそうに話をしている様子
があり、親子の温かい会話が聞こえてきて素敵な時間が流れていました。

こみち幼稚園園長 水上 明美



大阪成蹊学園主催イベント

大阪成蹊学園

第13回大阪成蹊
全国アート＆デザインコンペティション〈審査結果〉THEME | **ワタシノセカイ** | OSAKA SEIKEI ART & DESIGN COMPETITION 2023

ごあいさつ～審査を終えて～ 大阪成蹊大学 学長 中村 佳正

今年度で第13回となる「大阪成蹊全国アート＆デザインコンペティション」の審査が行われ、各賞が決定いたしました。中学生の部773点、高校生の部1,083点の合計1,856点と大変多くのご応募をいただきありがとうございました。テーマ「ワタシノセカイ」にふさわしい、自身を自由に表現する力作、秀作が揃い、本コンペティションを大いに盛り上げていただきました。ご指導いただきました中学校、高等学校の先生をはじめ、多くの方々のご尽力に厚く御礼を申し上げます。

中学生の部



▲ 文部科学大臣賞
「パラレルワールド」半田 笙悟
(高槻市立如是中学校3年)



▲ 毎日新聞社賞
「犀」柴田 涼帆
(茨木市立平田中学校3年)



▲ 大阪成蹊大学学長賞(金賞)
「舞台裏」佐野 聖
(大分市立上野ヶ丘中学校1年)



▲ 大阪府知事賞
「ACE of WANDS」秋元 優希菜
(東大阪市立盾津中学校3年)



▲ 大阪市長賞
「和書館」田村 明唯
(大阪府立咲くやこの花中学校3年)



▲ 大阪成蹊大学学長賞(金賞)
「Be Attracted」森祐太郎
(大阪府立咲くやこの花中学校3年)

高校生の部



▲ 文部科学大臣賞
「お粗末な始末」土田 颯真
(関西文化芸術高等学校2年)

「西瓜」
結城花江
(大阪府立槻の木高等学校1年)

毎日新聞社賞



▲ 大阪成蹊大学学長賞(金賞)
「リトルマザー」愛純 百葉
(佐賀学園高等学校1年)



▲ 大阪成蹊大学学長賞(金賞)
「Back to the nature」梅田 咲羽
(和歌山県立日高高等学校2年)



▲ 大阪成蹊大学学長賞(金賞)
「海月」堀越 千理
(フェリス学院高等学校3年)



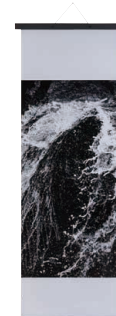
▲ 大阪府知事賞
「境界線」濱野 彩寧
(和歌山県立熊野高等学校2年)



▲ 大阪市長賞
「life size sheep」御船 新
(大阪府立工芸高等学校3年)



▲ 大阪成蹊大学学長賞(金賞)
「龍の住処」杉原 安咲
(山口県立下松高等学校2年)



大阪成蹊大学学長賞(金賞)
「視点」畑佐 みくる
(大阪府立港南造形高等学校3年)

大阪成蹊短期大学

グランプリ

大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科

2023年度 全国高校生

ファッション
デザイン画
コンテスト <審査結果>テーマ **delight**

三重県立四日市農芸高等学校 2年 香山 莉子さん



準グランプリ

静岡県立御殿場高等学校 3年 勝呂 百枝さん



2023年度「全国高校生ファッションデザイン画コンテスト」の審査が行われ、合計803点の応募作品の中から、37点の受賞作品が決定しました。たくさんのご応募ありがとうございました。グランプリ、準グランプリ、審査員特別賞、優秀賞については、2月10日に行われる生活デザイン学科卒業制作コレクションにて授賞式を行います。